

学習院大学大学院 人文科学研究科  
Gakushuin University Graduate School of Humanities

# 身体表象 文化学 専攻

Graduate Course in  
Cultural Studies on  
Corporeal and  
Visual Representation

学生募集案内

# 舞台芸術、映像芸術、 マンガ・アニメーション、 身体表象文化論（ジェンダー研究）、 身体表象文化史を統合する 新しいアプローチ

## 専攻紹介

## Course Introduction

学習院大学大学院にはすでにさまざまな古典的枠組みの専攻課程があります。しかし、20世紀後半から、そうした個別化した専攻では十分に扱いきれない学問の領域が明らかになってきました。それを私たちは「身体表象文化」と名づけ、その領域を横断的に研究する専攻課程を創始しました。

19世紀的な学問の中心にあるのはテキスト（文献、言葉）です。しかし、現代文化は表象（イメージ）抜きでは論じることができません。20世紀に発展した映画、アニメーション、マンガなどの芸術は、現代文化のなかに巨大な位置を占めていながら、これらを互いに関連づけ、また、先行する演劇などを含め、表象芸術の新たな展開として研究する場所がほとんどありませんでした。私たちの「身体表象文化学専攻」はその空白を埋める学問の場所です。

また、生身の役者が世界を表象する演劇、スターの身体が魅力的に映しだされる映画、「キャラクター」が時空を超えて活躍するマンガ・アニメーション。これらはすべて身体とイメージを重要な出発点とし、現代のメディア環境や産業にまで大きな影響を及ぼしています。そこではいったい何が起きているのか？「身体表象文化学専攻」は、この実感としては分かっているが、学問的には依然未知の領域の探究に乗りだそうとするものです。

そして、言葉と理性の絶対化からは見えてこないイメージや身体の文化的可能性について、研究の基盤を提供すること

も本専攻の目的のひとつです。そのために、身体表象文化の歴史や理論も深く学んでいきます。特に身体表象はそれを生み出す社会のジェンダー観と密接に関係しています。舞台芸術、映画、マンガ・アニメーションなどによって表彰される「身体」は、その時々々のジェンダー観を増幅・強化するだけでなく、時には既存のジェンダー観を攪乱し変化をもたらします。このような身体表象の社会的作用を分析する鍵となるのが、身体表象文化論で学ぶジェンダー理論です。

この遠大な目的のために、本専攻はさまざまな分野で活躍する一流の研究者を揃えました。学生の皆さんもその連係のなかに飛びこんで、現代文化の最先端とその本質を自分自身の身体と頭脳でとらえてほしいと思います。

身体表象文化学は舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーションを対象とし、イメージ媒体として身体が作り上げてきた文化的意味を問い直す新しい学問領域です。舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーションという領域を言語、地域、専攻領域を超えて、身体と関わる文化学として有機的に組み合わせ、より幅広く、より深い奥行きをもって学べるのが本専攻の特色です。

したがって演劇、映画、マンガ・アニメーションに関心のある方で、これらの対象を身体と関わる文化背景から研究してみたいという方には最適の専攻です。



## 教育研究上の目的

## Mission of Education

### ■博士前期課程

身体表象文化学専攻は、現代のイメージ芸術（主に舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーション）に関して広い知識を持ち、専攻分野の研究対象を調査・分析し、それを通じて現代文化について独自の意見を発信できる能力を持つ人材を養成する。

### ■博士後期課程

身体表象文化学専攻は、現代のイメージ芸術（主に舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーション）に関して総括的な知識と歴史的展望とを有し、専攻分野の研究対象に対して批評的一貫性のある分析を遂行し、それに基づいて現代文化について確かな意見を発信し、社会的な行動へと結びつける能力を持つ人材を養成する。

## アドミッション・ポリシー

## Admission Policy

身体表象文化学専攻では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

### ■博士前期課程

#### 知識・技能

1. 舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーション、身体表象文化論、身体表象文化史の5つの分野のうち1分野に関して、専門的な知識を身につけている。

#### 思考・判断・表現

2. 専門的知識と広い文化的関心とをバランスよく示す文章を書くことができる。

#### 関心・意欲・態度

3. 大学の学部におけるリベラル・アーツ的な広い教養と、文化全般に対する自発的な関心を持っている。

### ■博士後期課程

#### 知識・技能

1. 舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーション、身体表象文化論、身体表象文化史の5つの分野のうち1分野に関して、専門的な知識を身につけるとともに、自身の研究主題とその周辺の知的領域について深い思考を有している。

#### 思考・判断・表現

2. 専門的知識と広い文化的関心とをバランスよく示す文章作成能力を持ち、適宜、必要十分な長さの論文を書くことができる。

3. 扱う主題に関して従来の諸研究とは異なった視野を開く独創性を持っている。

#### 関心・意欲・態度

4. 専門的問題の特殊性に自足することなく、自身の論題を普遍的な文化の問題として同時代の読み手に向けて発信する開かれた精神的姿勢を持っている。

■専攻科目 (大学院科目)

Graduate degree programs

舞台芸術批評研究  
Studies in Theater Arts Criticism

映像芸術批評研究  
Studies in Film Arts Criticism

マンガ・アニメーション芸術批評研究  
Studies in Manga & Animation

舞台芸術文化論演習  
Seminar on Theater Arts

映像芸術文化論演習  
Seminar on Film Arts

マンガ・アニメーション芸術文化論演習  
Seminar on Manga & Animation Culture

身体表象文化論演習  
Seminar on Corporeal & Visual Representation

身体表象文化史演習  
Seminar on History: of Corporeal & Visual Representation

表象文化制度論演習  
Seminar on Art Management

修士論文指導  
Supervision for Master's Thesis

博士論文指導  
Supervision for Doctoral Thesis

■学部科目

Faculty Programs

【文学部共通科目】  
現代マンガ学講義  
Contemporary Manga Studies: Lecture

【基礎教養科目】  
舞台・映像芸術 A  
Stage and Picture Art A

舞台・映像芸術 C  
Stage and Picture Art C

本専攻は、①舞台芸術、②映像芸術、③マンガ・アニメーション、④身体表象文化論（ジェンダー表象を含む）、⑤身体表象文化史という5つの分野を柱としています。このうち本専攻の基礎的な理論的枠組みを提供するのは④身体表象文化論と⑤身体表象文化史です。本専攻に所属する学生はこの5つの分野から具体的な研究対象を選択して研究をおこない、修士論文および博士論文を執筆することになります。



①舞台芸術、②映像芸術、③マンガ・アニメーションの分野では「演習」と「批評研究」の2種類の科目を設置しており、演習科目では専門分野における基本的知識の確実な習得、批評研究科目では応用能力の開発と批評技法の習得を目指しています。この5分野以外にも、身体表象の制度的な枠組みを研究する「表象文化制度論演習」を設置しており、現場からの視点など、身体表象文化へのより広い、より具体的な視野を獲得することができます。

■修士論文 Master's Thesis Titles (※2013～2020年度分)

2013年度

- ・ジンガロによる馬の演劇  
—パフォーマンスとしての「テアトル・エクストル」を考察する
- ・眼差されるフリークス—攪乱される「正常」と「異常」
- ・松尾スズキにおける「ズレ」る言語と身体
- ・鹿鳴館研究—舞踏練習団体「舞楽会」の実態
- ・「腐女子」の自称
- ・宝塚歌劇団の男役におけるジェンダー表象

2014年度

- ・ポール・クローデル研究—その劇作における日本の伝統演劇の受容と展開
- ・異文化コミュニケーションとしての中日「二次創作」  
—「擬人化」モードの共有と浸透
- ・格闘技漫画における運動の表現
- ・ジャック・タチの作品の表現方法
- ・映像と言語を巡る表象—実験映像における「言語・言葉」の表現・効果
- ・三流劇画ムーブメントという時代

2015年度

- ・マンガの中国語訳から見る「音喩（オノマトペ）」の受容  
—『らんま 1/2』を中心として
- ・マンガ・アニメにおけるループ物語の表象—2000年代以降の作品を巡って
- ・劇画的絵柄の誕生—貸本漫画における絵柄の転換期
- ・「ワイセツ」と芸術
- ・漫画における時制表現
- ・パレエ研究—『白鳥の湖』の演出の多様性

2016年度

- ・黒澤明研究
- ・ホラー映画論—その「映画体験」の実態
- ・諸星大二郎論
- ・溝口健二作品研究
- ・「人形的」な黒髪の表象—「Jホラー」に着目して

■博士論文 Doctoral Thesis Titles

- ・空間創造と位相の身体—オスカー・シュレンマーの舞台芸術理論
- ・マンガ版『風の谷のナウシカ』における生成論的研究  
—コミックス成立時における改稿から見た作品分析
- ・日本のマンガ・アニメにおける「戦い」の表象
- ・映画における屠畜・食肉の表象  
—フランスとアメリカの作品の検討を中心に
- ・19世紀西洋演劇におけるジャポニスム—「日本」の表象の変遷
- ・近代視覚文化としてのマンガ  
—その文化的な位置づけと美学的意義について

2017年度

- ・日本における「声優」の歴史と役割の検討—映画史の視点から
- ・百合ジャンルの研究
- ・ジャン・ルーシュ論—民族誌映画の変遷
- ・現代日本社会における覇権的男性性の変容—男性誌における表象分析から

2018年度

- ・大島渚の戦後日本映画論
- ・アントナン・アルトーの方法意識
- ・戦前日本における記録映画の諸相
- ・BLマンガ・中村春菊『純情ロマンチカ』中国版の中国女性オタク受容の傾向
- ・矢沢あい『NANA』のファッション描写にみられる女性像
- ・現代日本における女性の髪の表象—『髪の喪失』に注目して

2019年度

- ・真崎守研究
- ・中国のウェブマンガにおける日本の「萌え」の受容  
—女性キャラクターを中心に
- ・視覚化する二次創作のキャラクター受容  
—中国ネット小説の女性向け二次創作と「応援」から考える
- ・アッパス・キアロスタミ研究
- ・2.5次元舞台の特異性—『刀剣乱舞』の受容と表象

2020年度

- ・大島弓子の家族論
- ・「24年組」中心史観と少女マンガ言説の再検討

※2012年度以前の修士論文タイトルは、身体表象文化学専攻公式HPから閲覧可能です。



専攻の教員

Faculty Members

中野 春夫 教授

担当領域：舞台芸術領域、身体表象文化史領域  
担当科目：身体表象文化史演習



国際演劇評論家協会、日本英文学会、日本シェイクスピア協会に所属。身体表象文化学専攻では、身体表象に関する歴史的な文化差異を演劇作品や図像、絵画などから系譜学的、受容史的に分析していきます。これまで指導してきた主な領域・対象は、シェイクスピアや現代英語演劇、2.5次元舞台、ジャポニスム、演劇翻訳（論）、「恋愛」や「花」などの表象史、魔女／悪魔／魔術表象、ガーデニング（史）などです。

ティエリ・マレ 教授

担当領域：舞台芸術領域担当  
担当科目：舞台芸術文化論演習



古代ギリシャから現代ヨーロッパまでの演劇に関心をもち、芝居を言葉と現実の（架空的といえども）結合として研究しようとしています。昔、つまり、日本に来る前という、今から遠く離れた時代ですが、劇作家や演出家の立場から、発声、音声、リズム、さらには俳優による朗唱などに対する興味が引きおこされました。その経験からも、身体が実践の現場になっている演劇と文学の相互関係を再検討したいと思っています。

中条 省平 教授

担当領域：映像芸術領域  
担当科目：映像芸術文化論演習



映画史、技法、作家性、テーマ、社会史を横断する総合的な映画研究をめざしています。「日本経済新聞」で映画時評も定期的に執筆中。

佐々木 果 教授

担当領域：マンガ・アニメーション  
担当科目：マンガ・アニメーション芸術批評研究／文化論演習  
現代マンガ学講義



マンガやアニメーションなどのメディアを日本だけでなくグローバルな観点から歴史としてとらえ、その上であらためて現代的な問題に切りこんでいきたいと考えています。

大貫 敦子 教授

担当領域：身体表象文化論（ジェンダー研究）領域  
担当科目：身体表象文化論演習



身体表象の形成とその文化的・社会的作用のメカニズムを、とくにジェンダー差異に着目して研究しています。担当する「身体表象文化論」では、パフォーマンスティヴィティ理論などの先端理論への導入を行いながら、身体表象を形成してきた言説やイメージを歴史軸にそってその変容のプロセスを検証しなおすとともに、現代の諸問題への切り口を受講者と一緒に議論していきたいと考えています。



## 研究支援

## Scholarship Programs

学習院大学大学院人文科学研究科は大学院生の研究活動を経済的にも支援しています。

特別研究費	申請者全員に支給 博士前期課程 5万円 / 博士後期課程 20万円
返還不要の奨学金	<ul style="list-style-type: none"> <li>■博士後期課程給付奨学金 年間授業料の3分の1相当額。</li> <li>■安倍能成奨学金 45万円(例年、研究科から7名程度)</li> <li>■学習院大学学業優秀者給付奨学金 30万円(毎年専攻から、博士前期課程の院生1~2名)</li> <li>■教育ローン金利助成奨学金 申請により金利の一部(上限5万円)</li> </ul>
TA・RA制度	多くの学生がTA(ティーチング・アシスタント)・RA(リサーチ・アシスタント)としてアカデミック・キャリアを積んでいます。TA・RAには、報酬が支給されます。
学会発表への補助	国内: 交通費と宿泊費(1泊5千円)を補助。 海外: 交通費・宿泊費の一部を補助。 (渡航地域により金額は異なります)
博士論文刊行助成	博士論文刊行の費用を、50万円まで助成します。



## 進路と就職先

## Career

### ■教育機関

学習院大学、麻布大学、跡見学園大学、慶應義塾大学、啓明大学、自治医科大学、城西国際大学、浙江樹人大学、玉川大学、中央大学、東京大学、東京工芸大学、フェリス学院大学、明治大学、立教大学、早稲田大学、日本外国語専門学校、日本健康医療専門学校、上海日本人学校高等部 ほか多数

### ■その他

アンスティチュ・フランセ東京、川崎市市民ミュージアム、国立新美術館、松竹株式会社、新国立劇場運営財団、株式会社寿限無、東急ステイサービス株式会社、フランス大使館、ミネルヴァ書房、株式会社和光、漫画家、翻訳業 ほか多数

## 講演会

## Lectures

これまでに開催された講演会の一例をご紹介します。(肩書・所属等は開催当時のものです)

- 【演劇公演会】  
「学習院リーディングセッション『RUR』」  
プロデュース団体「戯れの会」
- 【講演会】  
「上演へのアプローチ：言葉が冒険と劇になるとき」  
クロード・ビュシュヴァルド(パリ第8大学演劇学科准教授・俳優・演出家)
- 【講演会】  
「表現とセクシュアリティーズ」  
対談：田亀源五郎(漫画家) × 溝口彰子(学習院大学非常勤講師)  
司会：エスムラルダ(ドラッグクイーン)
- 【講演会】  
「ジャック・リヴェットの映画における身体の演劇性」  
アンヌ＝ガエール・サリオ(デューク大学ロマンス諸言語研究学科准教授)
- 【レクチャー・コンサート】  
「ヨハン・セバスティアン・バッハの作品における時間性と非時間性」  
ガブリエル・リジャール(パリ管弦楽団ヴァイオリン奏者)
- 【講演会】  
「新宿、渋谷、青山、下北沢一街の変遷から見る'80年代小劇場演劇史」  
対談：高泉淳子(俳優、劇作家、演出家) / 篠井英介(俳優)  
司会：立石和浩(東京芸術劇場 プロデューサー)
- 【研究フォーラム】  
「コマ割漫画の始まりと旅の文化」  
夏目房之介(学習院大学教授) / 森田直子(東北大学大学院情報科学研究科准教授)
- 【講演会】  
「アートとジェンダー、セクシュアリティ」  
溝口彰子(学習院大学非常勤講師) / 笠原美智子(アーツイゾン美術館副館長) / フブ・ド・ラ・マドレーヌ(アーティスト) / 森栄喜(写真家)
- 【講演会】  
夏目房之介教授最終講義「マンガ研究はなぜ面白いのか」  
夏目房之介(学習院大学教授)



## 学内学会

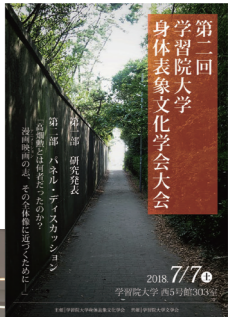
## Society

### ■学習院大学身体表象文化学会

2017年4月に設立された本専攻の在学生、卒業生、新旧教職員を構成母体とした学内学会です。本学会では、身体をめぐる表象文化研究の発展に寄与すべく、会員に研究成果の発表の場を提供すること、そして、会員内の親睦を図ることをおもな目的として掲げ、①大会・例会の開催、②学会誌『身体表象』の発行(デジタル刊行)の2つを中心とした活動を積極的に行っています。



レップ  
学習院大学身体表象文化専攻  
オリジナルキャラクター



## 先輩からのメッセージ

## Messages from Students

### 舞台芸術

#### 李思擎 博士後期課程



大学院への進学はメディアミックスの研究をしたいという気持ちから始まったのですが、博士前期課程でマンガやゲームなどの舞台化作品を研究するなかで、専攻の活気を感じることができたため後期課程へ進みました。日々の指導はもちろん、複数の領域を横断で

きる授業内容とそれぞれの領域の研究者とのコミュニケーションにより、常に新鮮な発見とモチベーションを保っていただける環境がありがたいです。

私が所属している中野ゼミは、各分野の研究者が研究発表して切磋琢磨する場になっています。先生や先輩たちのおかげで研究の根幹と意図をきちんと見つめ直すことができ、交流からもアドバイスを得られます。関心のある分野を学問として多面的に挑戦したいという方は、ぜひとも身体表象文化専攻で更なる一歩を踏み出しましょう。

### 舞台芸術

#### 鶴田雄大 博士前期課程



私が大学院に進学したのは、大学の部活動で携っていた演劇についてその歴史を学んだり理論的な側面から考えたりしたかったためです。私は本専攻で、17世紀のフランスで活躍したモリエールという劇作家の作品を研究しています。マレゼミでは古代ギリシ

アから17、18世紀フランスまでの演劇を検討しています。とくに喜劇についての授業は、戯曲から読み取れる当時の文化や思想などの解説もありとても楽しく学ぶことができます。

芸術やジェンダーについて会話したり考えたりしたいと思ったら、この専攻が一番適しているのではないのでしょうか。そのための環境やここで経験できる学問的な刺激は、他では得られないと思います。

### 映像芸術

#### 中田真梨子 博士前期課程



身体表象文化専攻の進学を希望した理由は、中条省平教授の本を読んで、先生の指導のもと映画研究をしたいと思ったからです。私は映画における動物表象の研究をしています。

中条ゼミで「映画の論じ方」を学びつつ、演劇、マンガ・アニメーション、ジェンダー研究を専門とする教員/学生からの意見も参考に、自分の研究を深化させるよう日々努めています。本専攻の最大の魅力は、自分の専門領域できちんと基礎を固めながら、多角的な視点も取り入れられることです。自分の興味・関心について探究したいと考えている方は、ぜひ一緒に切磋琢磨していきましょう。

### マンガ・アニメーション

#### 中島望 博士前期課程

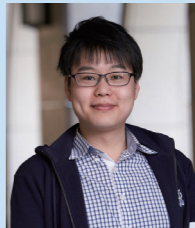


私はアニメーションにおける《心象風景》について興味があり、このテーマを多角的な視点から捉えたいということから本専攻に進学しました。

在籍する佐々木ゼミをはじめ、各ゼミでは、学生一人一人が自分の研究テーマについて発表する場を設けられるので、毎回議論が飛び交います。そこでは、個々が得意とする分野の知識や情報をシェアし合い、教授や先輩方からの明確な意見をいただきながら、自分の研究をより深められる有意義な時間を過ごしています。ゼミだけではなく、身体表象事務室のサポートも充実しており、院生活での悩みや研究についての相談などを真摯に聞いてくださるので、心身ともに心強い環境で研究を進めていけると

### 身体表象文化論(ジェンダー研究)

#### 田原康夫 博士後期課程



日本のマンガ・アニメ文化における同性愛表象の研究を志し、進学しました。本専攻を選んだのは、「マンガ・アニメーション」と「ジェンダー」が併置され、両分野の見地を交差させながら研究を進めることができるかと考えたからです。

在籍する大貫ゼミでは、前期に文献講読や事例研究(映像作品など)を、後期に学生発表を行ないます。学部・大学院合同ゼミということもあって参加する学生の所属は幅広く、研究対象も「マンガ」「西洋絵画」「お笑い」など多彩。時代や場所にとらわれず、さまざまな表象文化を研究できる場であること、それは当ゼミのみならず、本専攻に通底する方針だと思えます。

## 入試情報

## Admissions

### 【入試説明会】

例年 8月と10月の2回開催

### 【入学試験】

- ・秋期入学試験 9月
- ・春期入学試験 2月

	博士前期課程	博士後期課程
募集人数	約10名	約3名
試験科目	・外国語（英・独・仏から選択） ・選択した領域に関する論文 ・口述試験  *選択する領域は以下のいずれか1つとします。 i 舞台芸術 / ii 映像芸術 / iii マンガ・アニメーション芸術 iv 身体表象文化論（ジェンダー表象）	

### 入試情報および資料請求

学習院大学ホームページの「入試情報」をご覧ください。  
<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/>



専攻に関するお問い合わせ

## 学習院大学大学院 人文科学研究科 身体表象文化学専攻

〒171-8588 東京都豊島区目白 1-5-1

TEL : 03-5992-1404 / FAX : 03-5992-1247

E-mail : [cscvroff@gakushuin.ac.jp](mailto:cscvroff@gakushuin.ac.jp)

URL : <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/g-hum/cult/>

